

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立牛川小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 440-0016
豊橋市牛川町中郷6番地1

E-mail ushikawa-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.ushikawa-e.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 263 名 女子 280 名 合計 543 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「意欲的にかかわり合い、学び合う『牛川っ子』」をテーマに掲げている。ESDを「地域を愛し、地域の環境を守っていけるような自足可能な開発のための教育」と捉え、実践を通して、「地域のよさに気づき、地域を愛し、地域を誇りに思う子ども」を育成することを目標とした。

具体的には、「1 環境」「9 健康・福祉」「10 食育」を柱に、①環境に関わる教育 (地域の自然に触れ、大切にしようとする)、②健康・福祉に関わる教育 (地域施設を訪問し、高齢者とのかかわりについて考える)、③環境、食育に関する教育 (地域の方に米づくりを学び、育てた米や手作りした味噌の調理を通して食の大切さを考える) などの実践を行った。ここでは、①②について実践の様子を報告する。

①環境に関わる教育 (地域の自然に触れ、大切にしようとする)

— 1・2 年「公園探検に行こう」 4 年「朝倉川調査隊」 —

1・2 年生は生活科の時間に校庭や校区内の公園での生き物探しや植物の観察を行った。見つけた生き物や植物について図書資料を使って調べる学習や、

捕まえた昆虫を大切に飼育する活動などを通して、身近な自然に愛着をもち、すすんでかかわろうとする意識を高めることをねらった。

4年生では、総合的な学習の時間に朝倉川探検を行った。まず、「朝倉川の自慢できるところを探そう」という視点で調査活動を行った。「川に生息する生き物」や「水辺の植物」に興味をもって調べる子、川に入って遊ぶ中で流れが急で転びそうになった経験から「川の速さや深さ」を調べる子、川の中や岸辺の汚れに気づいて「捨てられているごみの量や種類」を調べる子など、それぞれが自分らしい着眼で川を見つめ、課題を見出していった。調査活動を続ける



4年 朝倉川探検



4年 朝倉川新聞

中で、保護者からの聞き取りから昔の朝倉川はもっときれいだったことを知った子どもたちは、「昔のような川にするために自分たちができることは何か」という思いをもった。そこで、育水フォーラムの方や市役所の環境保全課の方からの聞き取りを行った。その中で、生き物がたくさん来る環境とはどんなものを学び、「朝倉川復活プロジェクト」を立ち上げた。理科や社会科の水の学習などに関連づけたCODによる水質検査、川辺のごみ拾いなどを行い、川への愛着を高めていった。そして、ちらしやポスター、新聞などを作成し、学校のみならず朝倉川のよさや問題点を知らせ、「川を守ろう」と呼びかけていた。これらの学習を通し、子どもたちは自らの課題に向けて自分なりの方法で解決していくことを学んだ。朝倉川へ何度も出かけることで、地域の自然環境への興味関心を高め、「校区の自慢できる場所の一つとしたい」という思いをもつことができた。

②健康・福祉に関わる教育（地域施設を訪問し、高齢者とのかかわりを考える） —6年「支え合ういのち」—

本校では、地域の高齢者の方とのふれ合いを大切にした取り組みが長年行われている。1年生の「昔遊びの会」、総合的な学習やクラブ活動におけるゲストティーチャーなど、地域の高齢者の方々に支えられた教育活動が展開されている。そんな中、「支えられる」から「支える」側へと見方を変える活動として、6年生が高齢者福祉施設訪問を行っている。初めに、市の出前講座や施設の方による事前学習を行い、認知症などを抱える高齢者の心や体の状態、どんな対応が必要かなどを学んだ。ここでの学びを生かし、子どもたちは歌や手遊び、劇などの出し物を考え、折り紙のプレゼントを用意した。歌詞を大きく濃い字で書いた紙を用意するなど、相手側にたった工夫をしていた。訪問を喜んでくださる方たちの様子から、役立てたことの喜びを感じている子が多くいた。また、福祉施設で働く方の仕事の大切さを学び、身近に接する祖父母や近所の高齢者の方にも、自分のできることを考え、相手のことを思いやって行動したいという思いをもつことができた。



6年 福祉施設訪問

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 育水フォーラムHP
- ・ 「わたしたちと環境」(環境学習副読本)
- ・ 川や生物に関する図書資料、福祉に関する図書資料 多数

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生活科と総合的な学習の中にESDの活動を位置づけている。低学年はおもに「親しむ」こと、中学年では「調べ、かかわる」こと、高学年では「発信する」ことに重点を置いている。地域の方や地域の自然とのかかわり合いを大切にしながら、課題発見の力や課題解決の力、発信する力を段階的に育てていくように単元を構想する。関連する教科の学習を洗い出し、系統的横断的に取り組めるようにする。指導方法の工夫改善については、まだ十分に行えていない。これまでの積み上げを大切にしながら、子どもたちの思考に寄り添った課題解決の学習が展開されるように見直しを図りたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

前年度の実践を参考にカリキュラムや目標、活動内容の見直しを図る。その際に参考にできるように、授業案やワークシート、実践に関する資料などをできる限り次年度へ送るようにする。計画的に実践が行えるように、地域の方との事前打ち合わせを密にする。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動のまとめや感想、発表などから、活動への関心意欲態度、思考判断の様子を評価した。地域の人や自然を大切にしたいという思いの高まりは感じられたが、課題を追究していく姿勢や発信の力はまだ十分でない。学校アンケートで、地域と連携した教育活動に85%以上の保護者が評価をしてくださっているが、教員は75%とやや低い。価値ある課題を子どもが見出し、本気になって取り組んでいくためには、カリキュラムや単元構想の見直し、指導方法の更なる工夫改善が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

4年生は朝倉川探検で学んだこと、6年生は「いのち」をテーマにして学習発表会を行った。活動で得た思いを、自分の言葉で全校や地域の方々に発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

育水フォーラムや市の出前講座、地域の施設の方などの協力を得て、活動を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在は特に行っていない。今後、近隣で朝倉川での活動を行っている小学校との交流活動が展開できるとよいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

（児童）地域の自然や人とかかわり合いを通じて、地域の一員としての自分を自覚し、愛着をもってかかわろうとする姿勢が育ってきた。
（教員）子どもの思い、思考の流れに寄り添った学習を目ざそうとする意識が高まってきた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成32年度の新学習指導要領全面実施に伴い、総合的な学習の時間をどのように展開していくかについて検討する。その中で、ユネスコスクールとしての活動について見直し、「課題を見つける力、課題解決に取り組む力、発信する力」の向上と、「より積極的に地域とかかわろうとする子の育成」を目ざしていく。具体的には、カリキュラムの見直し（ESDカレンダーの活用）、これまでの積み上げを継承するための資料の整理やデータ化などをどの学年も行うようにする。特に、6年生の福祉に関する取り組みについては5年生後半から始めるようにし、より継続的・発展的に活動が行えるように見直しを図りたい。